

## 平成29年度 小さな経営革新チャレンジ支援事業 事例紹介

京都乙訓農業改良普及センター

### 【農産物生産】

#### 赤色ネットでネギアザミウマの侵入防止！

市町村	京都市	伴走支援 のポイント	調査研究課題に取り上げ、ネギアザミウマ及びネギえそ条斑病の被害調査を行い、情報提供を行った。
実施主体	清水 洋人		
事業費	119千円(補助金額:79千円)		
成果	赤色ネット内では、ネギアザミウマ及びネギえそ条斑病の被害が低下し、農業の散布回数も1/3程度に抑えることができた。		



赤色ネットで囲まれたネギほ場



被害調査を行う普及指導員

### 【農産物生産】

#### 紫外線照射によるうどんこ病予防！

市町村	京都市	伴走支援 のポイント	他府県で実績のあったUV-B電球型蛍光灯をイチゴ栽培ハウスに導入し、うどんこ病の発生状況を慣行防除ハウスと比較した。
実施主体	木下 尚彦		
事業費	302千円(補助金額:200千円)		
成果	本年は慣行防除ハウスでのうどんこ病発生も少なく有意な差は認められなかったが、UV-B蛍光灯を設置したハウスは例年うどんこ病が多発するハウスだったため、一定の効果があったと考えられる。		



UV-B電球型蛍光灯



夜間照射の様子

### 【流通・販売】

#### オリジナルBOXで変わり種ナスを出荷

市町村	京都市	伴走支援 のポイント	安定生産支援を行うとともに、本事業の活用についてアドバイスし、事業計画の策定、事業の進捗管理等伴走支援を行った。
実施主体	田中 宏明		
事業費	149千円(補助金額:99千円)		
成果	オリジナルBOXやラベルシールを使用した可愛い包装が契約先に評価され、出荷量、販売額の増加につながった。出荷量は前年比1.9倍、販売額は前年比1.8倍となった。		



オリジナルBOXで出荷



ラベルが貼られた変わり種ナス

## H29年度小さな経営革新チャレンジ支援事業 事例紹介

山城北農業改良普及センター

### 【流通・販売】

#### 有機JAS取得と販促グッズ活用による販売促進

市町村	八幡市	伴走支援 のポイント	農業ビジネス商談会への参加取組 支援及び6次化プランナーの専門 家派遣をセットで実施した。
実施主体	茨 ヨシ子		
事業費	269千円(補助金額:160千円)		
成果	有機JAS認証取得と、農園ロゴデザイン・販促グッズの制作を行い、販売促進活動を実施したところ、バイヤー等との話の中から新たなニーズを発見し、新商品開発(真空パック商品、レンジでチンのパック米飯)にもつながった。		



販促パネル



名刺(2つ折タイプ)裏面の商品説明

### 【加工品開発】

#### 観光農園のイチゴや自家栽培バジルを加工品に

市町村	宇治市	伴走支援 のポイント	事業計画の策定を支援し、事業進 捗状況管理のアドバイスを行った。
実施主体	若林 和志		
事業費	301千円(補助金額:200千円)		
成果	観光農園で収穫されなかったイチゴや自家栽培のバジルを使った商品(イチゴジャム、バジルペースト)を開発した。加工品のラインナップを増やし、土産品とすることで農園の認知度を高めている。		



観光農園のイチゴ



イチゴ、バジルを使った加工品

### 【加工品開発】

#### 完熟いちじくをドライいちじくに加工し販売

市町村	城陽市	伴走支援 のポイント	商品開発、衛生管理等については 専門家派遣制度を活用し伴走支援 を行った。
実施主体	森 潤		
事業費	300千円(補助金額:200千円)		
成果	ドライいちじくを直売所で販売することができた。173個(30g/パック)を12月までに販売することができ、農閑期の有望な収入として見込みがたつた。原材料となるいちじくの品質向上のために導入した白マルチにより、糖度が向上し、害虫被害が減少した。		



白マルチを設置したほ場



いちじく乾燥中



商品開発したドライいちじく

## H29年度小さな経営革新チャレンジ支援事業 事例紹介

山城南農業改良普及センター

### 【流通・販売】

#### オリジナル包装でリピーターを拡大

市町村	木津川市	伴走支援 のポイント	より高品質な生産とパーソナルブランドの確立による収益の向上。
実施主体	市川 浩之		
事業費	274千円(補助金額:182千円)		
成果	オリジナル袋による販売により、量販店と消費者の高い品質への評価が高まるとともにリピート率が向上して販売拡大・収益拡大につながっている。		



生協での販売促進



奈良市内の直売所での販売

### 【農産物生産】

#### 耕作放棄茶園で有機JAS認証の取得に向け取り組む

市町村	和東町	伴走支援 のポイント	有機栽培技術のうち特に重要となる病害虫の管理技術等、茶園の管理方法を助言。
実施主体	D-matcha 株式会社		
事業費	325千円(補助金額:200千円)		
成果	・耕作放棄茶園(面積:120a)で茶園の再生を進め、うち80aについては有機JASの取得に向け、規格にあった肥料の施用、農薬の散布を行うなど、取り組みを開始した(平成30年度取得予定)。		



3年以上耕作放棄され、再生を始めた茶園



再生とともに有機JAS認証をめざす

### 【流通・販売】

#### お茶(紅茶)体験教室を開催し、消費者に思いを伝える

市町村	和東町	伴走支援 のポイント	「和東紅茶」のPRに向けた「お茶体験教室」等の企画について助言。
実施主体	株式会社和東紅茶		
事業費	326千円(補助金額:200千円)		
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「お茶体験教室」を9月23日(参加者:23名)と2月18日(参加者:12名)に開催した。</li> <li>・和東紅茶の紹介、紅茶の淹れ方、パンとのコラボ、飲談等をつうじ、和東紅茶について理解を深めてもらった。</li> <li>・神戸ティーフェスティバルに出展、セミナーを行うとともに、試飲を約2500人に行った。</li> </ul>		



お茶体験教室(RING TEA kyoto)を開催



「和紅茶づくりとその広がりにかける夢」を語る

平成29年度 小さな経営革新チャレンジ支援事業 事例紹介

南丹農業改良普及センター

【農産物生産】

自動灌水装置導入によるナス栽培の省力化で売上向上

市町村	亀岡市	伴走支援 のポイント	少量多品目栽培経営の中で、売上の大きいナスの管理作業を省力化するため、日射制御型拍動灌水装置の導入を勧めた。
実施主体	日下部裕一		
事業費	256千円(補助金額:170千円)		
成果	装置導入により灌水・追肥作業が省略でき、余裕を持って剪定や防除を行うことができた。昨年より約4割面積を少なくしたが、樹が元気な状態を長期に維持できたことから、収穫期間も長くでき、なったため売り上げは昨年比143%と想定以上の成果を得られた。		



日射制御型拍動灌水装置(左奥)



9月のナスほ場

【農産物生産＋流通販売】

リーフレタスの水耕栽培にチャレンジ＋鮮度保持袋の導入

市町村	亀岡市	伴走支援 のポイント	水耕栽培の養液濃度、生産計画などをアドバイス
実施主体	石野万昭		
事業費	486千円(補助金額:200千円)		
成果	リーフレタスの水耕栽培に取り組み、栽培技術を確立することで、10～12月までの出荷物が少なくなる期間に商品アイテムを確保することができ、また、出荷袋を使ってホテル等に直接販売することができた。今後はさらに規模拡大を行い出荷量を増やす予定である。		



導入した水耕栽培システム



鮮度保持袋に入った出荷直前のリーフレタス

【6次産業】

新商品の自家製ジャム原料生産にチャレンジ！

市町村	南丹市	伴走支援 のポイント	ジャムづくりに適したイチゴ、ルバーブ生産(栽培管理)を支援
実施主体	西田貴彦(京都丹波高原食彩あん)		
事業費	282千円(補助金額:180千円)		
成果	自家製原料を増やすため、新たにイチゴとルバーブを栽培。ルバーブはジャム加工も初めての取組み、またイチゴはこれまで府内各地から購入していたが、およそ半量を自家製にすることができた。これで商品アイテムが一つ増えて11種類となり、道の駅等での販売し、好評を得ている。		



生育中のルバーブ(左)と、新商品であるルバーブジャム(右)



# 平成29年度 小さな経営革新チャレンジ支援事業 事例紹介

中丹東農業改良普及センター

## 【流通・販売】

### 精米の小袋(300g)販売で販路拡大

市町村	綾部市	伴走支援 のポイント	・生産者の構想(事業イメージ)を大切にしながら事業計画作成を通じて構想の具体化を支援
実施主体	河北 卓也		
事業費	192千円(補助金額:128千円)		
成果	精米の販売規格に新たに小袋(300g)を加え、ハンドリングの良さから京都市内の提携飲食店のレジ横などで気軽に販売できるようになるとともに、販路拡大の宣伝商材としても活用。		



飲食店のレジ横で陳列販売



ハンドリングの良いサイズ

## 【流通・販売】

### こだわり鶏卵のブランディング強化

市町村	綾部市	伴走支援 のポイント	アイデアを具体化するために、事業計画の策定支援やこまめな事業進捗管理を実施。
実施主体	峰地 幹介		
事業費	316千円(補助金額:200千円)		
成果	デザイン性の高いパッケージに変更したことでブランドイメージを確立でき、顧客満足度を高めることができた。高価格帯(100円/個)の商品であっても順調に販売できている。Facebook広告によるターゲットを絞り込んだ販促活動を実施したことで、口コミによる新規顧客の獲得にもつながった。		



デザイン性の高いパッケージによる、



facebookによる広告展開

## 【6次産業】

### 酒米「祝」網下米を活用してサイダーを開発

市町村	舞鶴市	伴走支援 のポイント	・事業計画の策定支援 ・販売先別売上額の取りまとめ
実施主体	(株) 椋本営農		
事業費	446千円(補助金額:200千円)		
成果	酒米「祝」の網下米を活用して京都米サイダーを開発し、地元や京都市内の農産物直売所等で販売するとともに、飲食店、旅館にも取引を拡大した。		



開発した京都米サイダー



ポスターでPR

# 平成29年度 小さな経営革新チャレンジ支援事業 事例紹介

中丹西農業改良普及センター

## 【農産物生産】

### コギク栽培の導入で 営農組合の収益性改善に取り組む

市町村	福知山市	伴走支援 のポイント	京力農場プランの一環として支援を行った。栽培・出荷技術を中心に、圃場での講習を心がけた。
実施主体	上野条営農組合		
事業費	134千円(補助金額: 89千円)		
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>●栽培経験がない中、目標とした府平均単収の1/2(40万円/10a)を達成できた。</li> <li>●夏期の収益作物として有望と認められたことで、技術向上と共に栽培拡大の検討も始まった。</li> <li>●JAを通して京都市場へ出荷する他、近隣の農産物直場所3店舗でも販売できた。</li> </ul>		



営農組合のメンバーで定植作



園芸作物で初めての収穫

## 【農産物生産】

### 夜久野の黒ボク土壌を活かし 金時ニンジンにチャレンジ

市町村	福知山市	伴走支援 のポイント	黒ボク土壌に対応した施肥設計など栽培指導の他、規格外品活用に向け加工業者とのマッチングも支援した。
実施主体	株式会社ファームきぬがわ		
事業費	392千円(補助金額: 200千円)		
成果	<p>品種選定では丸種種苗の「真紅金時」が最も色づき良く、3Lサイズの肥大良好な金時ニンジンが収穫できた。また、専用洗浄機を導入したことで出荷品質が高まり、直売所で高値販売(600円/kg)できただけでなく、規格外品活用にむけた加工業者との商談も有利に行えた。</p>		



試作ほ場では好適品種の選定を実



加工業者による現地視察の様子

## 【流通・販売】

### 新デザインの出荷袋で オリジナルブランドの注目度がアップ

市町村	福知山市	伴走支援 のポイント	試験出荷だけでなく、商談会への参加を勧めた。実需者から注目を集めたことで、今後の自信につながった。
実施主体	三崎 要		
事業費	506千円(補助金額: 200千円)		
成果	<p>オリジナルブランドの顔となる出荷袋を3種類作成し、商談会や試験出荷で活用した。こだわったデザインが好評で、商談会では以前より注目を集めることができた。ブランドの注目度が飛躍的に上がったことで、次年度から本格的な生産を計画している。</p>		



チンゲンサイ用出荷袋



商談会の様子

# 平成29年度 小さな経営革新チャレンジ支援事業 事例紹介

丹後農業改良普及センター

## 【農産物生産】

### LEDランプを使って桃の害虫防除を実施

市町村	京丹後市	伴走支援 のポイント	桃のIPM栽培を目指し、電源が無くても設置できるLEDランプの使用を勧めた。
実施主体	細川克幸		
事業費	101千円(補助金額:67千円)		
成果	・本年は、特にヤガの飛来が多く、桃の被害も多く発生したが、LEDランプの設置は簡単で、とても使いやすかった。果実の肥大する時期に設置することで害虫の飛来を防ぐことが出来る。		



LEDランプ(レビガード)



光害対策で園内向きに設置

## 【流通・販売】

### 京阪神のマルシェ参加によるこだわり野菜のPRと販路拡大

市町村	京丹後市弥栄町	伴走支援 のポイント	乾燥野菜の元となる野菜栽培の技術的支援を行った。また、経営に関する支援を行った。
実施主体	いけ田ふあーむ(池田宣幸)		
事業費	264千円(補助金額:176千円)		
成果	<p>○生産者より、下記の通り意見を頂いた。          「乾燥野菜(玉ねぎ、大根)は保存期間が長く、冬季の野菜生産の少ない時期に、計画的に製造、販売が可能のため、取り組むことができた。また、ニンジンの糠漬けや味噌漬、塩麹漬を製造、販売したところ、ニンジンの漬物が珍しいと購入して頂くことが多かった。少人数の家族を想定し、大根や小かぶなど2~4種の野菜を詰め合わせたものも好評だった。農家の手作りで素材にこだわって製造した点のアピール次第で販売量の増加につながると感じた。」</p> <p>○マルシェへの出店          乾燥野菜という新たな品目を販売したことにより、客層を広げることができ、販売強化に繋がった。また、マルシェに継続して出店したことにより、固定客が付いたとのことであった。</p>		



乾燥タマネギ製作の様子



商品化した乾燥タマネギ



マルシェの様子

## 【6次産業】

### 地域の耕作地を活用しエゴマの栽培と加工品開発にチャレンジ

市町村	京丹後市大宮町	伴走支援 のポイント	エゴマの食感を活かした加工品の開発に向け、支援を行った。
実施主体	はーちゃん工房		
事業費	224千円(補助金額:149千円)		
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の耕作放棄地を活用し、エゴマを栽培。</li> <li>・栽培し収穫したエゴマで、えごま油やえごま味噌、えごまふりかけを加工販売した。</li> <li>・えごま油はTango Good Goodsに認定された。</li> </ul>		



できあがったエゴマ加工品



販売されている様子